

[お知らせ]

## 中毒情報センターの研修医向け体験研修はじまる

黒木由美子 (公益財団法人日本中毒情報センター つくば中毒 110 番 施設長)  
Yumiko Kuroki

### 日本中毒情報センター (JPIC) とは

公益財団法人日本中毒情報センターは、日本救急医学会がその設立の中心となり、厚生省健康政策局 (現厚生労働省医政局) の指導の下 1986 年 7 月に財団法人として認可され、2012 年 4 月に公益財団法人に移行認定された機関です。

JPIC が実施する公益目的事業は、化学物質等に起因する急性中毒に関する情報および資料の収集、整備、および解析を行い、種々の資料およびデータベース等を作成し、これらを一般国民、医療従事者、および医療関係団体等に対して情報提供を行い、わが国の中毒医療の向上と広く公益に寄与する事業です。

### 中毒 110 番とは

中毒 110 番は、365 日 24 時間体制で、化学物質および自然毒の急性中毒に関して緊急の情報提供を行う電話相談窓口です。

実際に急性中毒患者が発生している、もしくは発生する恐れがある緊急時にものみ対応しています。茨城県つくば市と大阪府箕面市の 2 カ所があり、全国からの問い合わせを受信しています。両中毒 110 番には一般市民専用電話 (情報提供料は無料)、医療機関専用電話 (1 件 2,000 円)、賛助会専用電話 (有料、年会費制) の 3 回線があります。

一般市民専用電話

つくば: 029-852-9999 (9~21 時)

大阪: 072-727-2499 (24 時間)

医療機関専用電話

つくば: 029-851-9999 (9~21 時)

大阪: 072-726-9923 (24 時間)

その他にたばこ専用の自動応答電話 (072-726-9922、テープ方式で情報提供料は無料) や化学兵器テロ専用ホットライン (消防、警察、保健所に各 1 回線) の回線を設けています。

### 中毒 110 番体験研修 カリキュラム (東京ベイ・浦安市川医療センター 後期研修医向け)

	講義	時間	内容と目的
第 1 回	講義 1	1 時間	日本中毒情報センター (JPIC) の設立経緯、役割と活動体制 (救急患者受診前トリアージとしての役割、トキシコヴィジランス (毒物不寝番) 活動、化学災害・テロ発災時の対応等)、中毒 110 番問い合わせ概要を理解する。
	講義 2	45 分	中毒 110 番での情報提供方法、データベースの使用法の概要を理解する。
	DVD 視聴	15 分	一般市民への応急手当の回答方法を確認する。電話対応のシミュレーションの映像を視聴し、対応方法を確認する。
	中毒 110 番対応見学	30 分	実際の対応を見学し、受付登録用紙の記入方法、受付内容データベースの入力方法を確認する。
	中毒 110 番体験研修	1 時間 30 分	一般市民への対応、データベースへの入力、中毒情報データベースの検索を体験し、習得する。
第 2 回	中毒 110 番体験研修	4 時間	一般市民への対応、医療機関への対応、データベースへの入力、中毒情報データベースの検索、海外中毒情報データベースの検索を体験し、習得する。
第 3 回	症例検討会	2 時間	中毒症例の検討会 (JPIC で受信し収集した症例) を通じて、JPIC で中毒症例を収集していることの重要性を理解する。
	中毒 110 番体験研修	2 時間	一般市民、医療機関への対応。
第 4 回	中毒 110 番体験研修	3 時間	一般市民、医療機関への対応の総仕上げ。
	病院からの課題確認	30 分	課題発表用のパワーポイント等の確認 (必要に応じてアドバイス)
	アンケート	30 分	中毒 110 番体験学習アンケート (感想と課題等)

事前学習資料: 1) 日本中毒学会 (編) 「急性中毒標準診療ガイド」 急性中毒の標準治療、中毒医療ガイドライン、2) 月刊レジデント「特集 救急の現場で役立つ中毒への対処法」(2012)

病院からの課題学習: 各自の研究テーマがあり、研修終了後に院内で発表する (課題となった中毒について、必要に応じて JPIC で資料紹介や発表資料のアドバイスを行う)

中毒 110 番の相談員は、薬剤師および獣医師であり、臨床中毒学を専門とする医師がそれを支援するという体制で活動しています。

### 中毒 110 番体験研修について

東京ベイ・浦安市川医療センター救急科長志賀隆先生からのご要望を受けて、今年度から後期臨床研修医向け研修を開始することになりました。研修の目的は、JPIC の役割を理解し「中毒 110 番」で実際に問い合わせ対応を体験することにより、プレホスピタルからの中毒診療の流れを理解すること、および臨床現場だけでは充分経験できない幅広い中毒の知識と対応スキルを身につけることです。

今回はまず救急科教育ディレクターの船越拓先生と研修内容を検討し、日本中毒学会が提唱している中毒標準治療および中毒のトキシドローームはすでに理解しているということで、中毒 110 番の電話対応を中心とした体験研修（週 1 回 4 時間×4 回、



症例検討会のようす



中毒 110 番体験のようす

日本中毒情報センター  
住所：茨城県つくば市天久保 1-1-1  
お問い合わせ電話番号：029-856-3566  
URL：<http://www.j-poison-ic.or.jp>  
研修内容のご相談を承ります。

1 名 5 万円) を実施することになりました。なお、本研修に関するお問い合わせは、本部事務局 (029-856-3566) までお願いします。前期臨床研修医を含め研修内容の相談を承ります。

2012 年 6~10 月に研修を受けた東京ベイ・浦安市川医療センター救急科後期臨床研修医の先生の第 3 回の研修のようすを以下にご紹介します。

〔症例検討会〕常務理事の水谷太郎筑波大学医学部教授のご指導の下、中毒 110 番で受信した中毒症例を検討する症例検討会（月 1 回）にも参加します。今回は新規農薬の摂取による重症例、米国でも問題になっている 1 回使い切りコンパクトタイプ洗剤の誤飲による重症例、脱法ハーブによる中毒症例など、JPIC のトキシコヴィジランス（毒物不寝番）活動の典型的、かつ、ホットな話題が紹介され活発に討論されました。

〔体験者の感想〕薬品、物質に関する絶対的知識量が乏しいので内容的には難しかったです。中毒センターとしての取り組み（トキシコヴィジランス）を垣間見ることができて興味深かったです。事故そのものについての対応だけでなく、その原因をしっかりと考え、調査し、製造側や行政へフィードバックしていくことの大切さ、さらに海外での動向から今後の日本での発生予測などを行って対策することの意義などを具体例を通して学びました。

〔中毒 110 番体験〕症例検討会の後は、中毒 110 番体験研修です。この日は 2 時間で 12 件を体験しました。誤飲事故が中心でしたが中毒起因物質は、医療用医薬品、一般用医薬品、たばこ、カビとり剤、家庭用殺虫剤、虫よけ剤、化粧品、文具などさまざまでした。一般市民へは応急手当や医療機関への受診の必要性の有無を、医療機関へは中毒症状や治療法など詳細情報を提供します。

〔体験者の感想〕たくさんの電話相談に対応させていただいたので、非常に勉強になりました。実際に患者さん（相談者）が目の前にいるわけではないので、効率的に状況を確認するにはどのような質問をすればいいのか、また返答からどのようなことが考えられて、次にどのような対応をすればいいのかを頭をフル稼働して考えなければいけなかったのが、緊張しましたが、いろいろなケースを体験できて良かったです。

また、相談内容のパターンから、身近な中毒のシチュエーションやリスクを想像できるようになりました。

黒木由美子（くろき ゆみこ）

1987 年九州大学大学院博士後期課程卒業。薬学博士。1989 年日本中毒情報センター、2001 年より現職。2012 年より同法人理事。厚生労働省医薬食品衛生審議会本委員、同省厚生科学審議会健康危機管理部会臨時委員、社団法人日本中毒学会評議員。